

看護学科 1年 後期 総合科目

1. 体育と運動生理
2. 現代の文学
3. 現代の科学
4. 人権と日本国憲法
5. 富山コミュニティー論
6. コミュニケーション論
7. 情報処理Ⅱ

看護学科

科目名： 体育と運動生理				担当教員 氏名： 小川 耕平		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
2	1年次	後期	総合科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：		本講義では、健康増進施設での運動指導経験と競技スポーツにおける指導者として経験を活かし、人体の仕組みについて科学的に理解し、幅広い知識を持って健康・体力づくりについて理解し、実践できるようにする指導を行うものとする。				
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
人体の仕組みについて科学的に理解し、幅広い知識を持って健康・体力づくりについて理解し、実践できるようにする。特に生活習慣病予防や介護予防のための運動処方や実践方法について理解を深める。						運動・健康生理学 介護予防運動
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			人体の仕組みについて生理学的に理解ができる。			
B 専門的技術			人体の仕組みについて生理学的に理解し、医学(看護)と運動を関連付けることができる。			
D 問題解決力			疾病や予防のために必要な健康・体力づくりについて生理学的に理解できる。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %		レポート： 30 %		発表： %		実技試験： 20 % その他： %
特記事項：						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：中間評価および全体振り返り時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：クラスルーム及びグーグルフォームを利用して実施。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①我が国の健康づくり施策と現状について				【復習】我が国の健康づくりについて理解する	30分	
②運動の継続と実践への取り組みについて				【復習】運動継続のポイントを理解する	30分	
③トレーニングの原理・原則とトレーニング方法について				【復習】トレーニング方法を理解する	30分	
④生活習慣病と運動について				【復習】生活習慣病について理解する	30分	
⑤簡易健康・体力測定と運動の実践：ウォーキングテスト・健康確認				【復習】体力測定方法について理解する	30分	
⑥高齢期の健康・体力と運動について				【復習】高齢期の運動特性を理解する	30分	
⑦幼児期の健康・体力と運動について				【復習】幼児期の運動特性を理解する	30分	
⑧実技テスト：持久系テスト(中間振り返り)				【復習】自分の体力について理解する	30分	
⑨体力の概念について				【復習】体力の概念について理解する	30分	
⑩神経系の役割について				【復習】神経系の働きについて理解する	30分	
⑪エネルギーの産生について				【復習】体を動かすエネルギーについて理解する	30分	
⑫筋系の特性と機能について				【復習】筋肉の特性について理解する	30分	
⑬酸素運搬能力について(呼吸循環系)				【復習】酸素運搬能力について理解する	30分	
⑭運動の効果について				【復習】運動の効果について理解する	30分	
⑮まとめと振り返り				【予習】看護現場における運動の知識をまとめる	30分	
使用テキスト： 随時プリント等で配布します。					その他参考文献など： ・健康・運動の科学(講談社) ・運動とスポーツの生理学(市村出版)	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：理解できない点があればその時点で質問することを勧めます。 ・簡単な体力測定を実施します。(ウォーキングテスト・シャトルラン・簡易体力測定・筋力トレーニング実践)						

看護学科

科目名： 現代の文学				担当教員 氏名： 石崎 美恵子		
単 位	開講時期（年次・期）		科目の区分	授業方法	（卒業要件） 必修／選択	備考
2	1年次	後期	総合科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：						
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード	
現代の多様な価値観の中を生きる私たちは、とすると生きる意味を見失いがちになる。「現代の文学」では、文学作品を通して、構成や描写の巧みさや言葉の力を感じ小説の面白さを味わう。さらに、主体的な読みを通して、時代と人々の生き方、自然や環境による人間の有り様、人や社会とのかかわり、生きる意味 等について考える。					読書 描写 言葉の力 思索 人生 自己理解・他者理解 自然 時代	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 （卒業認定・学位授与の方針との関連）						
A 知識・理解力			様々な書籍に触れることで、読書の面白さを体験する。			
C 論理的思考力			テーマを設定し作品を論理的かつ構造的な視点をもって考え、文章化する。			
D 問題解決力			自分に問題を課し、思索、熟考を十分に行い自分なりの問題解決を志向する。			
E 自己管理能力			困難に直面しても前向きに生きるための心のもち方を学ぶ。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 40 %		レポート： 30 %		発表： %	実技試験： %	その他： 30 %
特記事項：上記「その他：30%」では、授業に対する姿勢、出席状況、積極性を評価する。						
アクティブラーニング要素： （課題解決型学修） ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第7回目で、課題レポートの提出を課す。第15回目（最終回）では、講義で取り上げた作品の中から任意の一冊を選択し、批評、考察を旨とするテストを実施する。毎回授業時に課題書籍の簡単なレポートを提出する。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：課題レポートにコメント、採点結果を添付後、返却。						
授 業 計 画				準備学修（予習・復習等）		
				学修内容	学修に必要な時間（分）	
①友情について考える。友だちに求めるもの、友達との関係性（思いの相違や共存）				【予習】テーマについて考察し考えをまとめる。 【復習】資料に再度目を通し理解と考察を深める。	【予習】30分 【復習】90分	
②①をテーマとする作品の書評と考察				【予習】課題書籍を読む。 【復習】配布プリントを再度熟読し推薦書籍を読む。	【予習】120分 【復習】120分	
③自己と他者について考える。自分とは何か、他者とは何か				【予習】テーマについて考察し考えをまとめる。 【復習】資料に再度目を通し理解と考察を深める。	【予習】30分 【復習】90分	
④③をテーマとする作品の書評と考察				【予習】課題書籍を読む。 【復習】配布プリントを再度熟読し推薦書籍を読む。	【予習】120分 【復習】120分	
⑤心と身体について考える。身体をどう捉えるか、心の多様な動きとその認識				【予習】テーマについて考察し考えをまとめる。 【復習】資料に再度目を通し理解と考察を深める。	【予習】30分 【復習】90分	
⑥⑤をテーマとする作品の書評と考察				【予習】課題書籍を読む。 【復習】配布プリントを再度熟読し推薦書籍を読む。	【予習】120分 【復習】120分	
⑦孤独について考える。孤独とは何か、孤独との向き合い方				【予習】テーマについて考察し考えをまとめる。 【復習】資料に再度目を通し理解と考察を深める。	【予習】30分 【復習】90分	
⑧⑦をテーマとする作品の書評と考察				【予習】課題書籍を読む。 【復習】配布プリントを再度熟読し推薦書籍を読む。	【予習】120分 【復習】120分	
⑨家族について考える。家族の意味、意義について、家族からの解放について				【予習】テーマについて考察し考えをまとめる。 【復習】資料に再度目を通し理解と考察を深める。	【予習】30分 【復習】90分	
⑩⑨をテーマとする作品の書評と考察				【予習】課題書籍を読む。 【復習】配布プリントを再度熟読し推薦書籍を読む。	【予習】120分 【復習】120分	
⑪死について考える。死とは何か、生きるとは何か				【予習】テーマについて考察し考えをまとめる。 【復習】資料に再度目を通し理解と考察を深める。	【予習】30分 【復習】90分	
⑫⑪をテーマとする作品の書評と考察				【予習】課題書籍を読む。 【復習】配布プリントを再度熟読し推薦書籍を読む。	【予習】120分 【復習】120分	
⑬人生について考える。人生とは何か、自然と人間について、生きる意味とは何か				【予習】テーマについて考察し考えをまとめる。 【復習】資料に再度目を通し理解と考察を深める。	【予習】30分 【復習】90分	
⑭⑬をテーマとする作品の書評と考察				【予習】課題書籍を読む。 【復習】配布プリントを再度熟読し推薦書籍を読む。	【予習】120分 【復習】120分	
⑮講義のまとめ				【復習】全講義で配布したプリント、ノートをまとめておく。	【復習】120分	
使用テキスト：資料としてプリントを配布する。					その他参考文献など： 新潮・角川・集英社など各社刊行の文庫	
受講上の留意点（担当者からのメッセージ）：講義の中で紹介する作品は、時間が許す限り積極的に読んで欲しい。また、授業で取り上げて欲しい作品や問題点がある場合は、積極的に提案してほしい。						

看護学科

科目名： 現代の科学				担当教員 氏名： 鳥山 朋二		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
2	1年次	後期	総合科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：		ハードウェア／ソフトウェア設計に関わる企業実務経験をもとに科学技術の解説を実施している				
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード	
科学技術は生活をより便利にし、効率的に活動できるようにする反面、人間関係を希薄化させるなどの問題も指摘されている。本科目では、ICTに関わる基盤技術の解説を主として行い、それらの技術が世の中のシステムとして展開されてるかについて、主に医療・福祉の分野のシステムを中心に解説する。医療・介護現場に今後導入されていく科学技術をよく理解し、それらのシステムへの関わり方を考察することを目的とする。					コンピュータ, デジタルテクノロジー, IT, ICT, IoT, 介護問題, 障がい者・高齢者支援	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			①身近にある科学技術の基本について理解する。			
C 論理的思考力			②科学技術が生活にどのように役立つか、またその課題を考察する。			
D 問題解決力			③身近な問題について、討論をとおして科学技術による解決・対処方法を考える。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト：		%	レポート： 60 %	発表： 20 %	実技試験：	% その他： 20 %
特記事項：本科目はアクティブ・ラーニング形式をとり入れる。受講人数が6名を超える場合は3～4グループ作成し、人数が少ない場合は個別に、授業中に(グループ間)討論を実施し、討論結果をまとめる。さらに前半と後半2回、グループごとで、事前に与えられたテーマについて発表し、全員で討論を行う。						
アクティブラーニング要素：						
課題解決型学修		ディスカッション、ディベート		グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：適宜課題を出し、レポートの提出を求める。また、討論の内容を踏まえて、グループ毎の発表を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：レポートについては評価、コメント等を学生に伝える。						
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)	
					学修内容	学修に必要な時間(分)
① 情報通信技術の現状と課題					復習，および指定箇所の予習	【復習】90分
②情報通信技術の基礎(アナログとデジタル)					復習，および指定箇所の予習	【予習】30分 【復習】60分
③情報通信技術の基礎(ハードウェアとソフトウェア)					復習，および指定箇所の予習	【予習】30分 【復習】60分
④ 情報通信技術の基礎(ハードウェアの構造1)					復習，および指定箇所の予習	【予習】30分 【復習】60分
⑤ 情報通信技術の基礎(ハードウェアの構造2)					復習，および指定箇所の予習	【予習】30分 【復習】60分
⑥ 情報通信技術の基礎(ソフトウェアの構造1)					復習，および指定箇所の予習	【予習】30分 【復習】60分
⑦情報通信技術の基礎(ソフトウェアの構造2)					復習，および次回発表準備	【予習】30分 【復習】60分
⑧ 情報通信技術の基礎(ソフトウェアの設計1)					復習，および指定箇所の予習	【予習】30分 【復習】60分
⑨ 情報通信技術の基礎(ソフトウェアの設計2)					復習，および指定箇所の予習	【予習】30分 【復習】60分
⑩ 情報通信技術の基礎(ソフトウェアの設計3)					復習，および指定箇所の予習	【予習】30分 【復習】60分
⑪「これからの情報通信技術」をテーマに発表・討論					復習，および指定箇所の予習	【復習】90分
⑫ 情報通信技術の応用(医療・看護支援システム)					復習，および指定箇所の予習	【復習】90分
⑬ 情報通信技術の応用(看護支援システム)					復習，および次回発表準備	【復習】90分
⑭ 情報通信技術の応用(介護支援システム)					レポート作成	【復習】90分
⑮ 全体討論とまとめ					レポート作成	【復習】90分
使用テキスト： 特にテキストは使用しない。必要に応じてGoogle Classroomを用いて電子的に資料を配布する。					その他参考文献など： 1.)ICTの知っておきたい基礎知識 FOM出版 ISBN:978-4865103618	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：はじめの講義時間で詳細に述べる。						

看護学科

科目名： 人権と日本国憲法				担当教員 氏名： 後藤 亜季		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
2	1年次	後期	総合科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：						
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード	
無人島で誰ともかかわらずに生きない限り、私たちは必ず、いずれかの社会に属して生活することになる。社会にはルールが存在するが、中でも特に重要となるルールが法律である。講義では、社会人としてまた医療従事者にとって必要な憲法(人権)を学ぶ。また、現代的な問題について検討する。					憲法、法律、人権、自己決定権、医療	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			社会生活上必要な法的知識の獲得と理解ができる			
C 論理的思考力			法的な考え方(リーガル・マインド)の習得ができる			
D 問題解決力			社会生活上生じる様々な法的問題を解決するために、獲得した法的知識とリーガル・マインドを用いることができる			
E 自己管理力			法的知識とリーガルマインドの活用により、社会生活上生じる様々な紛争を回避することができる			
G 倫理観			人権や権利擁護に対する正しい理解を得、幼児教育に関する学修や実習、将来に活かすことができる			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 100 %		レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： %	
特記事項：授業中の発言は発言点となる。発言点は、テストで獲得した点数に加算され、合計点で成績評価を行うこととする。なお、授業計画は進度や履修者の興味関心に応じて変更することがある。						
アクティブラーニング要素：						
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：最終試験は別に定める日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：採点して返却する。模範解答を配布する。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①ガイダンス：授業や評価について理解する 法学概論Ⅰ：国家や法律はなぜあるかを考え、理解する				【予習】自分の身の回りにある・見聞きした法的事件を確認する 【復習】国家や法律がどのような役割を果たすのかをまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
②法学概論Ⅱ 法律の種類を理解する 具体的な紛争をどのように解決されるかを理解する				【予習】法律の種類を調べる。紛争はどのように解決されているのか調べてくる 【復習】法と法律の違いを確認する	【予習】120分 【復習】120分	
③法学概論Ⅲ 具体的な紛争と違憲判決について理解する 法律の機能、特徴を理解する				【予習】法律の種類を調べる。紛争はどのように解決されているのか調べてくる 【復習】法と法律の違いを確認する	【予習】120分 【復習】120分	
④憲法概論Ⅰ 憲法とはどのような法律か―現代的憲法の成立と人権を中心に理解する				【予習】市民革命について学んでくる 【復習】市民革命から現代的憲法の成立までをまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑤憲法概論Ⅱ 日本国憲法の三大原理を理解する				【復習】日本国憲法の三大原理、それぞれの関係性をまとめる	【復習】240分	
⑥人権総論 憲法第13条と同第15条以下の人権規定、新しい人権について理解する。個人の尊重、と契約を理解する				【予習】憲法第15条～第40条までについて調べる 【復習】憲法第13条と同第15条以下の関係、新しい人権についてまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑦憲法第13条と自己決定権Ⅰ 自己決定権、信教の自由を理解する 輸血拒否事件1 成人事例について学び、理解する				【予習】憲法第13条について調べる 【復習】自己決定権と信教の自由についてまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑧憲法第13条と自己決定権Ⅱ 親権について理解する 輸血拒否事件2 子どもの事例について学び、理解する				【復習】輸血拒否事件の論点をそれぞれまとめる。成人事例と子どもの事例の違いを明確にする	【復習】240分	
⑨憲法第13条と自己決定権Ⅲ 生殖の自由、生殖補助医療、親子関係決定法について理解する				【予習】生殖補助医療について調べる 【復習】生殖の自由と親子関係決定法についてまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑩憲法第13条と自己決定権Ⅳ 夫死亡後に夫の冷凍精子を用いたAIH事件を学ぶ AHD事例を学ぶ				【復習】授業の内容をまとめ、AHIやAIDはどのようにあるべきか検討する	【復習】240分	
⑪憲法第13条と自己決定権Ⅴ 代理母契約、代理懐胎事件、生殖補助医療に関する問題を学ぶ				【復習】代理母に関する授業の内容をまとめ、今後の生殖補助医療はどうあるべきかを検討する	【復習】240分	
⑫憲法第13条と自己決定権Ⅵ 尊厳死と安楽死を学ぶ 安楽死事件を学ぶ				【予習】尊厳死と安楽死について調べる 【復習】死の決定権について検討する	【予習】120分 【復習】120分	
⑬憲法第14条				【復習】合理的な区別と不合理な差別についてと判例の論点を整理し、まとめる。日々の生活において生じている異なる取扱について検討する	【復習】240分	
⑭人権に関する現代的課題				【予習】医療と人権に関する問題について調べてくる 【復習】授業内容について、検討する	【予習】120分 【復習】120分	
⑮まとめ				【予習】全体の復習をする	【予習】240分	
使用テキスト：テキストはありません。授業中配布するレジュメをします				その他参考文献など： いちばんやさしい憲法入門 第4版(有斐閣アルマ)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：配布したレジュメに従って授業を行います。法律を難しいと感じている人もいますが、次の点でこの授業は皆さんにとって役に立つと思います。社会のルールである法律、特にその中でも最も重要な憲法についての知識を得ることは、①社会人となる皆さんにとって必要であること、②多様な人々が暮らす社会においてその多様性を認めた上で適切な医療を提供する専門家として活躍する際に、とりわけ大切な行動指針を与えてくれること。③現代の社会的な問題や、日々において直面する問題の本質を理解したり、解決する力を養うことができること。授業では、具体的な事例を用いて、皆さんに参加していただきながら、できるだけわかりやすく、楽しく授業を進めていきます。是非意欲的に参加してください。なお、受講者の希望に合わせて内容を変更することがあります。						

看護学科						
科目名： 富山コミュニティー論				担当教員 氏名： 炭谷英信とりまとめ 他		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
1	1年次	後期	総合科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：地域の中なかでの活躍している教員の活動を通して学生の可能性を引き出すための教育支援						
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
主体的に地域の課題を学び、その解決のために必要な目標を設定し、具体的に「ひと・こと・もの」(地域社会)に関わる行動に移し、自身を「つくり、つくりかえ、つくる」実践力を高める。						教育目標「つくり、つくりかえ、つくる」、 『私』宣言、地域社会に生きる「私」、実践躬行
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
D 問題解決力			問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。			
E 自己管理能力			地域社会の「ひと、こと、もの」に働きかけ自己を律して行動できる。			
G 倫理観			自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。			
F チームワーク・リーダーシップ			【市民としての社会的責任】義務と権利を適正に行使しつつ、地域社会に生きる「私」になる			
C 論理的思考力			【生涯学習力】自ら設定した目標(『私』宣言)に対して、それを行動に移し、「つくり、つくりかえ、つくる」の実践力を持つ。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %		レポート： 60 %		発表： %		実技試験： %
						その他： 40 %
特記事項： その他については、授業への積極的な取り組みとグループへの貢献度によって評価する。						
アクティブラーニング要素：						
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： 毎回、ADが計画と実施の報告を受け、指導する。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①【学科全体】学修の進め方、地域調査の基本について、地域社会に生きる「私」をつくる				【予習】シラバスの確認	30分	
②【AD】各グループで地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成を立てる①				【予習】計画書の作り方を調べる	30分	
③【AD】各グループで地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成を立てる②				【予習】計画書の作り方を調べる	30分	
④【AD】各グループで地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成を立てる③				【予習】計画書の作り方を調べる	30分	
⑤【AD】連携期間との打合せ				【予習】計画書の確認	60分	
⑥【AD】調査計画の修正				【予習】計画書の確認	60分	
⑦【AD】地域課題のフィールドワーク①				【予習】計画書の確認と準備	60分	
⑧【AD】地域課題のフィールドワーク②				【予習】計画書の確認と準備	60分	
⑨【AD】地域課題のフィールドワーク③				【予習】計画書の確認と準備	60分	
⑩【AD】地域課題のフィールドワーク④				【予習】計画書の確認と準備	60分	
⑪【AD】地域課題の解決策の検討				【予習】フィールドワークまとめ	60分	
⑫【中村】ボランティア活動を通しての「私」の育ち(ボランティア活動発表)※1				【予習】発表準備	60分	
⑬【AD】学習成果のまとめ①				【予習】報告書の書き方を調べる	60分	
⑭【AD】学習成果のまとめ②				【予習】報告書の書き方を調べる	60分	
⑮【学科全体】学習成果報告会				【予習】発表準備 【復習】レポート作成	120分	
使用テキスト：				その他参考文献など：佐藤郁哉：フィールドワークの技法－問を育てる、仮説をきたえる さまざまな領域の文献を探求的に探し参考にしてほしい。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ※1.ボランティア報告会の日時は学科専攻の担当教員からお知らせがあります。 ・「地域つくりかえ学」で学んだことに基づいて地域課題に主体的に取り組む。積極的な「つくり、つくりかえ、つくる」を目指そう。						

看護学科

科目名： 情報処理Ⅱ				担当教員 氏名： 新田 雅道					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考			
1	1年次	後期	総合科目	演習	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：									
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード				
今後のデジタル社会において、数理・データサイエンスIを日常生活、仕事の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に着けること。					統計基礎、データサイエンス、データの比較、データの集計、個人情報保護、情報漏洩				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力			・データを読み解く力、説明する力、データを扱うための力を養う。 ・情報作成能力を身に付け、活用能力を高める。 ・データを利活用する際の留意事項に関する知識習得。						
D 問題解決力									
C 論理的思考力									
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	%	発表：	%	実技試験：	%	その他：	%
特記事項： ・上記、「その他」では授業の態度、授業中の課題演習の提出状況などで評価する。 ・授業外の予習・復習が不可欠であり、反転授業(アクティブ・ラーニング)として、学生が主体的に関わる意識を持つことを重視する。									
アクティブラーニング要素：									
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：授業中後半に毎回課題演習を行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：授業中に出す演習課題については各学生毎にチェックする。									
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)				
					学修内容		学修に必要な時間(分)		
① ガイダンス：数理・データサイエンスを学ぶ事の意義					ヒックデータを活用したビジネス		【予習】30分 【復習】30分		
② 統計学の基礎知識(サンプリングと母集団)の理解					統計基礎の知識・スキル		【予習】30分 【復習】30分		
③ 統計学の基礎知識(正規分布)の理解					統計基礎の知識・スキル		【予習】30分 【復習】30分		
④ Excelによるデータ編集(入力、演算)の習得					Excelを活用したデータの処理		【予習】30分 【復習】30分		
⑤ Excelによるデータ編集(関数)の習得					Excel関数の活用		【予習】30分 【復習】30分		
⑥ Excelによるデータ分析(グラフ)の習得					Excelによるデータのグラフ化		【予習】30分 【復習】30分		
⑦ Excelを活用した将来予測の習得					分析ツールの利用		【予習】30分 【復習】30分		
⑧ Excelを活用した適正価格の推定の習得					分析ツールの利用		【予習】30分 【復習】30分		
使用テキスト： 「イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Office2016対応」(noa出版)、適宜資料を配付					その他参考文献など： 情報リテラシー(noa出版)				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 授業での演習時間が少ないので必ず予習・復習をすること。事前にデータを収集することがある。									